

# 「男女共同参画の視点に立った地域の課題解決」のためのプログラムデザイン

【事業名】 映画「17歳の瞳に映る世界」から考える～子どものリアルに寄り添う性教育って？～

【趣旨】 社会はジェンダー平等を目指しているが、「性」についてはどうか？自分の体は自分のものであり、性に関する決定権はすべて自分にあるという認識が前提となる包括的性教育の推進が重要。そこで今回、次世代の教育に携わる方を対象に、映画鑑賞、当事者支援に携わる方の講話、グループワークを通じて、リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは何か？性教育を担うにあたってどんな視点が必要か？について考える場とする。（実施日：土曜日の午後13：30～16：30 単発講座）

**課題** 若年層の妊娠・中絶の増加、男性任せの避妊法、デートDVなど子どもの性をとりまく問題に押しつぶされそうな大人たち。性教育の重要性は感じるが何をどう伝えたいのかわからない！！

**目的** 子どもたちの成長に寄り添う存在（保護者、教員など）が「自分の体は自分のもの」「性の問題は当事者を責めるだけでは何も解決しない」という前提の上に、性教育＝人権教育であるということを確認し、自分の意識の構築、子どもへの関わり方や寄り添い方について考える場とする。

**対象** 子どもをもつ親、教員や福祉関係などの対人支援職に就いている方（50人程度）

**連携先** 市内NPO法人、県内ユースクリニック、映画配給会社

**目標** 基点・基軸の形成 課題解決 振り返り

男女共同参画推進意識の形成 現状把握 課題把握・課題共有 課題解決の方策の検討 課題解決のための行動

**内容**

- 【課題に関心を寄せる】
  - 映画鑑賞（101分）「17歳の瞳に映る世界」（2020年・アメリカ、イギリス）
  - 自分が望まない妊娠をしていることを知った17歳の少女。友達が少なく、親にも相談できない彼女は、苦悩の末に人知れず中絶手術を受けるべく、唯一の親友である従妹とともに、中絶手術に両親の同意を求めないNYへ向かう。そんな彼女たちを待ち受ける苦難の旅を描いた作品。
- 【実際に支援に携わっている方の講話を聞く】
  - NPO法人職員の講話
  - 支援の目的
  - 事例紹介
  - 課題
  - 思い など
- 【グループワークで意見や感想をアウトプットする】
  - （映画の内容や感想も織り交ぜながら）
  - ・あなたが受けた性教育は？
  - ・何が伝えづらい？
  - ・「妊娠した」と言われたらどうする？
- 【グループワークの成果を全体で共有する】
  - グループごとに提起された意見や感想、質問を発表。
  - 講師にも立ち会ってもらい、講師からのコメントも盛り込みつつ全体共有する。（講師をファシリテーターにすると進行がスムーズ？）
- 【理解を深める資料を紹介し引き続き考え続けてもらう】
  - 関連図書の展示コーナー
  - 図書室に企画展を設け講座の宣伝&意識啓発。（※ユネスコ「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」）
  - 「ジェンダー・シネマガイド」の発行
  - NPO法人の活動紹介コーナー
- 講座アンケート  
↓  
次年度の企画に反映

**方法** 映画鑑賞（1時間41分）+休憩5分 講話（30分） グループワーク（25分） 全体ワーク（15～20分）